AIバブル、根強い懸念 崩壊まで「80%」地点 米株市場

23161078　宇藤悠貴

—

- 米株式市場が人工知能（AI）バブルの状態にあるとの懸念が金融関係者の間でくすぶっている
- 米著名投資家は、相場はバブル崩壊まで「約80%」の地点にあるとみる
- ダウ工業株30種平均は、4月にトランプ米政権が相互関税を発表したショックで急落してから、今秋にかけて一時32%上昇
- 投資家が重視するS＆P500種株価指数は４３%値上がり

—

- 2008年のリーマン・ショックを予測したことで知られる米著名投資家のレイ・ダリオ氏は市場が「バブルの真っただ中にあるのは明らかだ」
- 大恐慌が起きた1929年や、2000年前後のITバブルの状態を100%とすると、「現在は約80%」の位置にあると分析
- 金融関係者は最近、自宅の電気工事に訪れた技術者など、たまたま話をした複数の人から株の運用成績を自慢された
- 「靴磨きの少年が株の話を始めたら暴落が近い」という逸話を思い出した

—

- エヌビディア株などの急伸は製品やサービスに対する実需に支えられており、利益の裏付けがないまま株価が上昇したITバブルとは異なるとの指摘も多い
- エヌビディアが19日発表した四半期決算は投資家の期待を上回る内容で、同社のフアン最高経営責任者（CEO）は、先端半導体の販売は「桁外れに伸びている」と強調した

コメント

—

- AIバブル崩壊があることと、AIが未来に重要な技術であることは矛盾せず両立することは意識しておくべきポイントです。
その未来に不可欠な技術を寡占しようとして起きている競争が激化し過ぎていることが問題を起こすだろうということです。
- ロビンフッドやソーファイで誰でも少額から株を買える時代になった今は金融恐慌時代の靴磨きの話とは次元が違うだろう、見たことのない未来に想いを巡らすか不安に思うか、歴史は韻を踏むと過去にしがみつくかは人それぞれ、バフェット氏がGoogleに投資するくらいなので、昔名を馳せた人物の発言が当てになるとは限らない、ポジョントークを見極めたい

感想

- バブルの時代を経験したことがないので、今のAIの熱狂具合がバブルを思い出させるという話を聞いて、そのような視点で見たことがなかったことに気づきました
- ですが、今のAIブームでGoogleやマイクロソフトのような大企業が力を入れているのを見ると、バブルではなく実現するのでないかと感じました